

## にじますぼちぼち通信 2022年12月号

### ○ B・Bが「ブリスキー・ザ・ベアー」の略だなんて、道産子の常識だべさ

日本ハムファイターズのマスコット「B・B」が当園にやってきました。ここ数年はプロ野球を観ることもなく、ときどき新聞のスポーツ欄で順位を眺めるぐらいでしたので、正直に白状しますと話を聞いたときは「B・B？そういえば何か動物のキャラクターがいたような...」というぐらいで。一応来る前に軽く予習はしたものの、「来季の予想は？」なんて訊かれたら答えられないな、とか、逆にふなっしーみたいにガンガン



とても自然に写っているだけに、逆に不思議な感じな写真になりました。

こられたらどうやって対応しようか、などと心配しつつ出迎えました。気になっていたのは「靴を脱いで建物に入ることはできるのか？」という点。しかしそこは「ご安心を」とばかりに室内履きを持参されてまして、玄関で靴の上に室内履きを「履いて」無事室内に迎えることができました。店の中を案内し、歴史や料理の説明をした後はいけすの魚を見に行くことに。なんととっても熊ですから、目を離したすきに池に飛び込んで、魚をくわえて出てきたり... するわけではなく、池の縁から興味深そうに魚を見ていました。

### ○ チリ産トラウトサーモンの祖先は松久園のニジマス、だったかもという話

先月の通信でお知らせしたとおり、現在国内産のニジマス・サーモンが不足しています。当園も年末に向けていろいろと探してはみたものの、例年通りの量の確保は難しい状況です。チリ産のトラウトサーモンを代わりに使うことも考えたのですが、果たしてそれでお客さんは喜ぶのかどうか、自信が持てずにやめておくことにしました。さて、そのチリ産のサーモンですが、そのルーツは日本にあることをご存知の方は少ないのでは。国際協力の一環で1970年ごろ、養殖事業を立ち上げようと日本人の研究者がチリに派遣されていたのです。かつて父から「うちのニジマスの卵をチリに送ってるんだ」なんて話を聞いたこともあり、「JICA」の文字の入った箱を物置の奥で目にしたこともありました。残念ながら日本から送られた卵はほとんどが失敗に終わり、羽衣亭のサーモンが松久園のニジマスの子孫である可能性は限りなく低いのですが、なんだか親近感は覚えますね。



W杯の対戦ではなく、技術協力があつたことを示す看板。

### ○ もう12月ですが、芸術の秋は美術館へ

11月23日の勤労感謝の水曜日、祝日ではありますが店を休ませていただき、家族（受験生一人は除く）で帯広美術館の「銀の匙展」へ行ってきました。ハッピーマンデー（という呼び方も過去のものになりつつありますが）の祝日が増えるにつれ水曜日に祝日が重なることも減り、店を開けるかどうか悩むこ



撮影可の展示の多い、珍しい展覧会でした。

とも少なくなりました。近年は5月の連休以外はそのまま休ませてもらっています。正月以外で家族がそろって休める貴重な日ということで、以前は翌年のカレンダーが届くとすぐに確認していましたが、子どもが大きくなりますと、部活や習い事の行事が重なっていたり、そもそも親の予定などどうでもよかったですよね。今回は一巻から読み直し、ばっちり予習して臨んだ展覧会、無事に一緒に行ってもらえて良かった。